

令和7年度成田市スポーツ推進審議会会議概要

1 開催日時

令和7年7月29日（火） 午後2時から午後2時30分まで

2 開催場所

成田市花崎町 760 番地

成田市役所 議会棟3階 第一委員会室

3 出席者

（委員）

野平会長、菅沢副会長、梶尾委員、清水委員、沢田委員、
古川委員、竹内委員、尾高委員、大塚委員

（事務局及び出席者）

シティプロモーション部 伊藤部長、スポーツ振興課 鵜澤課長、
スポーツ振興課 齊藤主幹、スポーツ振興課スポーツ振興係 菅原係長、
スポーツ振興課スポーツ振興係 関副主査、観光プロモーション課 鈴木主任主事、
文化国際課国際交流係 青柳係長、障がい者福祉課給付管理係 佐々木係長、
生涯学習課社会教育係 大川係長

4 議事

- （1）成田市スポーツ振興マスタープラン令和6年度進捗状況について
- （2）令和7年度スポーツ振興施策について
- （3）その他

5 議事（要旨）

- （1）成田市スポーツ振興マスタープラン令和6年度進捗状況について

《発言要旨》

事務局から成田市スポーツ振興マスタープランの進捗状況の報告を行った。委員からの質問や意見についてはなし。

- （2）令和7年度スポーツ振興施策について

《発言要旨》

令和7年度に実施予定の事業について報告を行った。また、団体運営費補助金を交付している団体の実績などについても説明を行った。委員からの質問や意見についてはなし。

(3) その他

その他として各委員より、以下の質問や意見があった。

委員：危険な暑さが続いているが、先日、スポーツを指導する上で必要な熱中症対策に関する知識をWEBで受講した。市でスポーツの中心的な役割を果たす指導者などに対し、熱中症対策を啓発している取組はないか。

事務局：市で講演などの啓発事業は行っていないが、市内のスポーツ施設では冷却ミストや冷水器を設置するなどしてハード面での熱中症対策を実施している。
今後、近年の猛暑に適應できるよう、熱中症対策の啓発について、市としてどのようなことができるのか検討していきたい。

委員：同じく熱中症対策に関する取組として、先日開催した障がい者スポーツ大会の中で、ソフトボールでは試合の途中で飲水を取るための休憩時間を設けるなど、ルールを現在の暑さに対応できるように変更して実施をした。今後は、ルールを変えるなど柔軟な対応が必要になってくると考える。

委員：先日行われた日本陸上競技選手権大会では、スポーツ活動における熱中症予防のために暑さ指数を活用しており、その指数が31を超えると会場内で練習を控えるようにアナウンスされ、練習等も中断する対応がされていた。市内の陸上競技場で練習をしていると、子供たちが朝9時から昼頃まで続けて練習していることがあり、日本選手権のような大きな大会でも暑さ指数などを用いて運動制限を行っているので、市や各施設で利用者に呼びかけることはできないのか。

事務局：基本的には、市の方から利用者に強制的に活動を行わないよう呼びかけることは難しいが、まずは各施設において利用者に対し、暑さ指数をはじめその日の気候にしっかり留意していただくよう周知することが重要であると考えている。また、過去には開催が決定している野球大会について、熱中症の危険性が極めて高いことから直前に中止になったケースもあった。運動が危険な場合には中止の判断が必要な場面もあるかと思うので、スポーツイベントの主催者や各指導者などに熱中症の危険性をしっかりと理解いただけるよう周知の方法なども検討していきたいと考えている。

委員：スポーツ・みどり振興財団では、陸上競技場や球技場、テニスコートなどの入り口に熱中症の注意事項が書かれた看板を掲示するなどして危険な気温の時に運動を控えるよう啓発している。スポーツ施設の管理者としては、この暑さなら運動をやめてほしいという日があるが、市内全体で中止判断の基準などがないと、利用者からの苦情なども懸念される。

委員：スポーツ振興マスタープランの数値目標で設定している「週1回以上スポーツ実施率」では、令和元年度の実績33.7%に対し、令和6年度実績で51.7%と18ポイントの上昇があるが、年代別で見るとどのような数値となっているのか。

事務局：２０歳から３９歳までのスポーツ実施率は４６．８％、４０歳から５９歳が４５．７％、６０歳以上が６４．７％となっている。

委員：令和元年度に実施した調査の実績と比べて２０歳から３９歳までの層の伸び率が高いと思うので、どのような取組が数値の改善につながったかなど、年代別の分析もしながら、今後の取組に生かすとよいと思う。

６ 傍聴

（１）傍聴者

０人